



素晴らしい音色に耳を傾ける観客の皆さん

1月17日、トルコ在住の日本人ピアニスト・永井浩子さんによるピアノリサイタルが旧ヒルトップホテル和田金で開催されました。トルコ人男性との結婚を機に移住した永井さんと、エルトゥール号の遺品調査で何度も串本町を訪れているトゥファン・トゥランさんの出会いがきっかけで開かれたリサイタル。トゥランさんと串本町地域おこし協力が連携し、日本とトルコの文化交流の機会が設けられました。

リサイタルは、昼夜2回行われ、計80名の方が鑑賞しました。永井さんは「戦場のメリークリスマス」やトルコで有名な「アル・ヤズマルム」など10曲を演奏。最後に永井さんの伴奏で観客全員が「トルコ使節艦エルトゥール号追悼歌」を合唱しました。演奏終了後、永井さんの夫のウズギユル・チャルクさんがトルコについて紹介。ウズギユルさんは、永井さんが妊娠中であることに触れ、「男の子ならエルトゥールと名付けたい。」と話しました。



観客全員で追悼歌を合唱しました

## 日ト友好ピアノリサイタル

### トルコ在住永井浩子さんの華麗な演奏



## 春を告げる海の祭「水門祭」

和歌山県指定無形民俗文化財

2月11日、豊漁と商売繁盛を祈願し、串本に春を告げる祭りとして知られている大島の「水門祭」本祭が執り行われました。早朝から夕方まで多彩な神事が執り行われ、大勢の見物客が勇壮な海の祭を楽しみました。「御儀の儀」では、弓頭の串本古座高校3年の山下翔也さんと近大附属新宮高校3年の山崎愛己さんが素早く弓を構えて矢を放ち、約30メートル先の的に命中させていました。山下さんは「真ん中に当たって気持ちよかったです。」と話し、山崎さんは「寒くて手がかじかんだけど上手くできました。」と話していました。呼び物の「權伝馬競漕」では、寒風の中、上半身裸のこぎ手たちが「鳳」「隼」の伝馬船に乗り込み、勇ましいかけ声を上げて串本までの往復約4キロを競い合いました。競漕の結果、鳳組が勝利を収めました。その後、かわいらしい稚児行列や口上を述べて商いを滑稽に演じる「つるの儀」が行われ、訪れた見物客から大きな歓声が飛んでいました。



重さが14kgある砲弾に興味津々の子どもたち



遺品の保存処理作業を体験する子どもたち

1月25日、旧養春小学校内のエルトゥールリサーチセンターで大島小学校3・4年生の児童12名がトルコ軍艦エルトゥール号の遺品保存処理作業を体験しました。エロ遺品発掘調査団の団長トゥファン・トゥランさんが、串本町での調査で約8千個の遺品が引き揚げられていることを紹介。トゥランさんの妻で考古学者のベルタ・リエドさんが、遺品を調査したうえでトルコ記念館に展示

## ふるさとの教材でふるさとを学ぶ

### 大島小の児童がエロ遺品保存作業を体験

していることを説明し、「皆さんが作業をした遺品が展示されるかもしれません。」と話しました。子どもたちはベルタさんの指導を受けながら、船体の一部と思われる銅板を歯ブラシで丁寧に洗う、プラスチック樹脂を刷毛で塗って補強する作業を体験しました。同小4年生の増井朝衣さんは「トルコの人たちと助け合えたことを誇りに思う。」と話していました。



①力強く櫂をこぐ若者たち ②真剣な表情で弓を引く弓頭 ③獅子舞の奉納 ④獅子とかけひきをする天狗 ⑤宮を下る神幸の儀 ⑥⑦つるの儀